

5 外国語科目 (13年次生以前対象)

外国語科目について

学科別履修指定言語

英語

初習言語 (全般)

ドイツ語, フランス語, イスパニア語, 中国語, コリア語

イタリア語, ロシア語, (ブラジル) ポルトガル語

ラテン語, アジア・アフリカ諸語

日本語・翻訳科目

海外短期語学講座, 交換留学海外英語集中講座, 開講科目担当表

外国語科目について	外国語科目
学科別履修指定言語	学科別履修指定言語
英語	英語
初習言語 (全般)	初習言語 (全般)
ドイツ語, フランス語, イスパニア語, 中国語, コリア語	独・仏・西・中・コリア語
イタリア語, ロシア語, (ブラジル) ポルトガル語	イタリア語・ロシア語・ポルトガル語
ラテン語, アジア・アフリカ諸語	ラテン語・アジア・アフリカ諸語
日本語・翻訳科目	日本語・翻訳科目
海外短期語学講座, 交換留学海外英語集中講座, 開講科目担当表	海外短期語学講座・交換留学海外英語集中講座・開講科目担当表

外国語科目履修上の注意（13年次生以前対象）

1. 共通重要事項

1) カリキュラムの変更について

2016年度以降、一部の言語でカリキュラムが大幅に変更となった。未修得の科目がある場合は、各言語のページおよび履修登録期間前に掲載されるLoyolaの掲示を熟読の上、不足している科目を履修すること。

2) 全学共通科目としての外国語

- ・『全学共通科目としての外国語』は、全ての学科で同一言語8単位必修となっている。
- ・学科によって、履修を指定している言語の種類が異なるので、「2. 学科別履修指定言語」（p.187～188）を参照すること。
- ・全学共通科目としての外国語は、各学科で指定された必修8単位の他に履修しても、全学共通科目の選択必修および選択科目には含まれない。

3) 学科科目としての外国語

- ・『学科科目としての外国語』とは、全学共通科目としての外国語の他に、学科独自に卒業要件として定める外国語のことである。
- ・学科によって、履修を指定している言語の種類が異なるので、「2. 学科別履修指定言語」（p.187～188）を参照すること。『学科科目としての外国語』の履修を、卒業要件として課していない学科もある。詳細は所属学科のページを参照のこと。

4) 履修区分について

外国語科目を履修登録する場合、あらかじめ区分を選択し登録することが必要となる。『全学共通科目としての外国語』、『学科科目としての外国語』どちらの区分として登録するか、自分の卒業要件や履修状況を確認のうえ間違いないように登録すること。

5) 履修できる単位数について

- ・1言語につき、各学期2単位、年間4単位を上限とする。ただし英語の選択科目・初習言語の上級科目・初習言語のオプション科目・海外短期語学講座・交換留学海外英語集中講座および日本語はこの限りではない。
 - ・初習言語については、各言語とも、コア科目の初級・中級科目の履修できる単位数は、原則としてそれぞれ4単位までである。ただし一部のアジア・アフリカ諸語はこの限りではない。
 - ・同学期中に複数の言語を同時に履修することができる。
- *初習言語のコア科目・オプション科目の定義はp.195「1) 科目の種類について」を参照すること。

6) 語学レベルと履修順序について（詳細は、英語p.189～、初習言語p.193～、日本語p.198～参照）

- ・各言語とも、自身の語学レベルによって履修できる科目が限られている。
- ・原則として、はじめに指定された語学レベルを変更することはできない。ただし、これまでの学習歴によってレベルを変更できる場合がある。この場合は所定のレベルアップの手続きを行うこと。
- ・言語ごとに指定された履修順序に従って履修すること。

7) 出席回数について

- ・単位修得の最低条件として、定められた出席回数を守ること。（→p.185「2) 出席回数について」参照）

8) 重複履修について

原則、同一科目を2回以上履修しても卒業要件に算入されない。同一科目とは、原則として科目コードが同じ科目である。ただし、言語やレベルによっては一部重複履修が認められているため、各言語のページで確認すること。

9) 外国語科目の履修中止について（重要）

- ・外国語科目については、全学共通科目、学科科目にかかわらず原則としてLoyolaを通じて履修中止することはできない。ただし、履修言語の変更を希望する場合と選択科目もしくは卒業要件に算入されない科目を履修している場合に限り、学事センター窓口で「履修中止」の申請を認める。
- ・履修中止を希望する場合は、履修中止申請期間に、履修成績照会画面のコピーを持参のうえ学事センター語学科目担当に相談すること。
- ・詳細は履修要覧〔ガイド・資料編〕 p.37「願書の提出でのみ中止が認められる科目」を参照すること。

2. 概要

1) 外国語科目の種類

外国語科目は、次の22言語である。

- ・英語
- ・日本語
- ・初習言語（ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語、中国語、韓国語、インドネシア語、フィリピン語、アラビア語、イタリア語、タイ語、ペルシア語、ラテン語、カンボジア語、ビルマ語、トルコ語、ベトナム語、ヒンディー語、スワヒリ語）

2) 出席回数について

語学科目の出席回数を以下のように定める。単位修得の最低条件として、定められた出席回数を守ること。成績は、出席回数を満たしたうえで、各科目の評価基準に従い付与される。

出席回数を満たせば必ず単位が付与されるというわけではない。出席しなければならない日数は、成績評価の最低限の条件であり、欠席や遅刻の回数が評価に影響を及ぼさないということではない。

出席は初回の授業からカウントする。学生が初回の授業に出たのちに登録を削除し、別の登録コードの科目に登録しなおした場合、それまでに出席した授業の出席分は新たに登録した科目に引き継がれない。

なお、言語教育研究センターの科目では、下記に示す特別措置以外の事由（就職活動、ゼミ・部活などの公式な行事、交通遅延、忌引き等）は一切認めていない。急な病気や、特別措置が適用されないような事情が生じたときのために、普段からできるだけ欠席しないように心掛けること。

①週1回の科目（全14回）

11回以上の出席を必須とする。

②週2回の科目（全28回）

23回以上の出席を必須とする。

③週4回の科目（全56回）

46回以上の出席を必須とする。

④週5回の科目（全70回）

59回以上の出席を必須とする。

⑤週10回の科目（全140回）

119回以上の出席を必須とする。

外国語科目について	学科別履修
英	英
語	語
(全般)	初習言語
中・ロシア語	独・仏・西
ポルトガル語	イタリア語
アラビア語	インドネシア語
フィリピン語	中国語
ベトナム語	韓国語
ヒンディー語	スワヒリ語
スワヒリ語	ラテン語
	アジア
翻訳科目	日本語
開交海外	短期
講座	英語
科目	集
目録	中
担当	講
表	座

<特別措置>

次の内容に当てはまるものは、出席にも欠席にも扱わない。

ただし、いずれも授業に出席できない期間が3週間を超える場合は、超えた期間についてはいかなる理由であっても特別措置の対象としない。また2つ以上の事由の合計が3週間を超える場合、超えた期間については特別措置の対象外とする。特別措置が認められた場合の出席回数については、担当教員に確認すること。特別措置の対象者で、出席に替わって課題を課された者は、その提出が特別措置を受ける条件となる。

- ・ 病気や怪我のうち、登校できない期間が明記された診断書を提出できる場合（*1）
- ・ 上南戦に参加する者のうち、大学からの証明を提出できる場合
- ・ 裁判員選任等に伴う欠席（履修要覧〔ガイド・資料編〕p.13に記載された手続きを踏むこと）
- ・ 教育実習、養護実習、介護等体験、館務実習のうち、証明書を提出できる場合
- ・ 看護学科の実習で、証明書を提出できる場合

（*1）慢性的な疾患について

期間が明記できない疾患の場合は事前に言語教育研究センター（6号館5階）に相談すること。相談できる期間は、春学期科目の場合4月24日（金）まで、秋学期科目の場合10月16日（金）までとする。

<遅刻の取扱いについて>

授業開始時間（定刻）より、30分経過しても入室しなかった場合は、その後遅れて入室し授業を受けたとしても、欠席扱いとする。（0時限開講の科目については、定刻より15分経過とする。）

3) ナンバリングについて

外国語科目のナンバリング（分野名）は以下の通りである。

なお、ナンバリングで表記されている分野名の後の数字3桁はレベルを示しており、その内容は言語によって異なる。

ナンバリング (分野名)	言語
ENG	英語
GMN	ドイツ語
FRN	フランス語
HSP	イスパニア語
ITL	イタリア語
CHN	中国語
KOR	韓国語
RUS	ロシア語
POR	(ブラジル)ポルトガル語
LAT	ラテン語
IND	インドネシア語
TGL	フィリピン語
ARA	アラビア語
THA	タイ語
PER	ペルシア語
CAM	カンボジア語
BUR	ビルマ語
TUR	トルコ語
VIE	ベトナム語
HIN	ヒンディー語
SWA	スワヒリ語
JPN	日本語

2. 学科別履修指定言語（13年次生以前）

以下の表は、各学科で卒業要件としている外国語を一覧表にしたものである。各自で以下の表と所属学科の頁を参照の上、履修すること。学科開講の指定言語（●で表示）については、各学科のページを参照すること。

注)「全学」は全学共通科目としての外国語を、「学科」は学科科目としての外国語をあらわす。

学部	学科	登録区分	英語	ドイツ語	フランス語	スペイン語	ロシア語	ポルトガル語	中国語	コリア語	インドネシア語	フィリピン語	アラビア語	イタリア語	タイ語	ペルシア語	ラテン語	カンボジア語	ビルマ語	トルコ語	ベトナム語	ヒンディー語	スワヒリ語	日本語（*3）	履修度	単位数	備考			
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○		
神	神	全学	○																						必修	8				
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	選択	*1	*2	
文	哲 (ドイツコース)	全学	○	●																						必修	8	哲学科指定外国語*1		
		学科	○	●	○													○								○	6	ドイツ語は哲学科指定外国語*1		
	哲 (英語コース)	全学	○																								必修	8		
		学科	○	○	○													○									○	8	英語は哲学科指定外国語*1	
	史	全学	○																								必修	8	日本史専攻者の単位については*1	
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								○	4	必修で選択した以外の外国語	
	国文	全学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										○	8	原則として英語*1	
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									○	6	*2	
	英文	全学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										○	8		
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										○	8		
	ドイツ文	全学	○																									必修	8	
		学科	○																									必修	8	
	フランス文	全学	○																									必修	8	
		学科	○																									必修	8	
新聞	全学	○																									必修	8		
	学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									○	8			
総合人間	教育	全学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		必修	8		
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	*2	
	心理	全学	○																									必修	8	
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4		
	社会	全学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		必修	8	
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4~8	*1, 2	
社会福祉	全学	○																									必修	8		
	学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4			
看護	全学	○																									必修	8	*4	
	学科	○																									必修	8		
法	法律	全学	○	○	○																						必修	8		
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								○	8	*2		
	国際関係法	全学	○	○	○																						必修	8		
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								○	8	*2		
地球環境法	全学	○	○	○																							必修	8		
	学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								○	8	*2		
経済	経済	全学	○																								必修	8		
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								○	4			
	経営	全学	○																								必修	8		
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								○	4			

外国語科目
について
指定言語

英
語
(
全
般
)
初
習
言
語

中・
コ
リ
ア
語

独・
仏・
西・
中
語

ポ
ル
ト
ガ
ル
語

ラ
テ
ン
語
・
ア
ジ
ア
語

日
本
語
・
英
語
・
中
語

海
外
短
期
集
中
講
座
・
開
講
目
録
表

学部	学科	登録区分	英語	ドイツ語	フランス語	イスパニア語	ロシア語	ポルトガル語	中国語	ロシア語	インドネシア語	フィリピン語	アラビア語	イタリア語	タイ語	ベルシア語	ラテン語	カンボジア語	ビルマ語	トルコ語	ベトナム語	ヒンディー語	スワヒリ語	日本語(*3)	履修度	単位数	備考		
外国語	英語 (11~13年次生)	全学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	必修	8		
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	選択	4	*2
	ドイツ語 (12~13年次生)	全学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	必修	8	
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	選択	4	*2
	フランス語 (12~13年次生)	全学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	必修	8	
		学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	選択	4	*2
ロシア語 (12~13年次生)	全学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	必修	8		
	学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	選択	4	*2	
ポルトガル語 (12~13年次生)	全学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	必修	8		
	学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	選択	4	*2	
理工	物質生命理工	全学	○																							必修	8		
		学科																											
	機能創造理工	全学	○																								必修	8	
		学科																											
情報理工	全学	○																								必修	8		
	学科																												

*1 詳細は各学科のページを参照すること。

*2 全学共通科目で選択した以外の外国語を選択すること。

*3 日本語は、日本語を母語としない学生、および所属学科の指導により、その履修の必要性が認められた者を対象とする。対象外の者が履修しても卒業要件に算入されない。なお、翻訳科目については日本語を母語とする学生も履修できるが、詳細はp.198を参照すること。

*4 詳細はp.130を参照すること。

英語

13年次生以前の学生向け再履修者用科目は2017年度に廃止となった。このため、卒業に必要な単位を修得し終えていない学生は、以下の説明を読み、自身のレベルに見合ったACADEMIC COMMUNICATION(AC) 1, 2 (14年次生以降の必修科目)を、正しい履修順序に沿って履修すること。なお、当該科目は週2回の2単位科目であり、必要単位数が奇数の場合も同科目を履修する必要がある。

1) プレイスメント・テストについて

英語科目(言語教育研究センター開講)を履修するためには、プレイスメント・テストを受けなければならない(国際教養学部・理工学部英語コースの学生を除く)。下記に該当する学生はプレイスメント・テストを受験すること。なお、受験希望者は4月6日(月)15:30までに、言語教育研究センター(6号館5階)にて手続きをすること。詳細はLoyola掲示板(学事センター[教務])を確認すること。

- ・英語の履修が必要な学生のうち、プレイスメント・テスト未受験の者。
- ・英文学科の学生で「PRINCIPLES OF ENGLISH LANGUAGE TEACHING」の履修を希望しているが、学科の定める英語力基準に達していない者。
- ・教職課程履修者のうち、自学科で定められた教科以外に他教科として、「英語」の免許取得を希望する学生が、課程科目の「PRINCIPLES OF ENGLISH LANGUAGE TEACHING」又は「PRACTICE IN ENGLISH LANGUAGE TEACHING」(旧:英語科教育法)を履修する場合。

【これまでにプレイスメント・テストを受けたことがない学生】

日 時	2020年4月7日(火) 午前9時30分集合 [試験時間] 10:00~12:30 (予定)
場 所	当日、掲示板にて指示する
結果発表	2020年4月8日(水) 11:00 [掲示場所] Loyola掲示板(学事センター[教務])

- ・10:15を過ぎた場合、テストは受験できない。この場合、当該年度は英語科目を履修することはできない。
- ・学生証、筆記用具(マークシートのためHBの鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム)を持参すること。
- ・時計を持参すること。携帯電話を時計代わりに使用することはできないので注意すること。

2) レベルについて

プレイスメント・テストの結果に基づき、学生は下記の6つのレベルに分けられる。

プレイスメント・テスト後に英語をはじめ履修する学生は、以下3)を参照し、指定されたレベルの科目を選んで履修すること(プレイスメント・テストで指定されたレベルを変更することは一切認められない)。

なお、2学期目以降のレベルについてはp.190を参照すること。

基礎	これまでまったく、あるいはほとんど英語を勉強したことがない。
初 級	ゆっくり話された英語を理解し、簡単な質問をしたり、答えたりすることができる。自分や家族、身の回りのことについて簡単な英語で話すことができる。また、やさしい英文を読んだり、簡単な文を書いたりすることができる。
中級Ⅰ	一般的な日常場面で、英語を聞いて理解したり、話したりすることがなんとかできる。
中級Ⅱ	いろいろな場面で英語を聞いて理解したり話したりことができ、英語で授業を受けたり学習することもそれほど苦ではない。
上級Ⅰ	英語を読み、書き、聞いて理解することがかなりできるが、これらの能力をさらに高めたい。
上級Ⅱ	読む、書く、話す、聞くことのすべてがかなり楽にできるが、さまざまな媒体・資料を用いて、分析・総括・議論の機会を増やし、英語運用能力をさらに高めたい。

3) 履修方法について

これらの科目を履修する必要のある学生は、4)の履修時間帯にあるブロックのうち、学科の必修時間割等と重複のない(英語科目を登録可能な)ブロックをすべて所定のフォームに記入の上、各学期の授業期間開始日の前日までに言語教育研究センター(6号館5階)に提出し、クラスの指定を受けること。ただし、登録できるのは各学期1科目(2単位)、年間2科目(4単位)までである。

について	外国語科目
指定言語	学科別履修
英語	英語
(全般)	初習言語
中・コア語	独・仏・西・
ポルトガル語	イタリア語・
アラビア語	ラテン語・アシ
翻訳科目	日本語・
開講科目	海外短期英語学講座・

現在のレベル	新科目	修得単位	旧科目
基礎	AC1, 2 (INTRODUCTORY)	週4回/各学期2単位 (ただし1回は50分)	基礎英語
初級	AC1, 2 (ELEMENTARY)	週2回/各学期2単位	英語初級(総合) -1, -2
中級Ⅰ	AC1, 2 (INTERMEDIATE I)	週2回/各学期2単位	英語中級Ⅰ-1, -2 英語中級(読解) -1, -2 英語中級(作文) -1, -2
中級Ⅱ	AC1, 2 (INTERMEDIATE II)	週2回/各学期2単位	英語中級Ⅱ-1, -2 英語中級(読解) -1, -2 英語中級(作文) -1, -2
上級Ⅰ	AC1, 2 (ADVANCED I)	週2回/各学期2単位	英語上級Ⅰ-1, -2
上級Ⅱ	AC1, 2 (ADVANCED II)	週2回/各学期2単位	英語上級Ⅱ-1, -2

4) 履修時間帯

- ・基礎の学生は、「AC (INTRODUCTORY) 1, 2」(月・火・木・金, 0時限(8:00-8:50) 2単位/学期)を履修すること。
- ・初級～上級Ⅱの学生は, 3) の履修方法にあるとおり, 以下のブロックのうち, 学科の必修時間割と重複のない(英語科目を登録可能な)ブロックをすべて申し出ること。

時限/曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
0	INTRODUCTORY	INTRODUCTORY		INTRODUCTORY	INTRODUCTORY
1	A	E		A	E
2	B	F		B	F
3	C	G		C	G
4	D			D	
5					

- ・AC2を履修した場合は, AC-TEAP (TEAP4技能試験)を必ず受験すること。
- ・受験日等の詳細は5月末までにLoyola掲示板(学事センター [教務])に掲載するので確認すること。また, 授業内においても教員から案内する。

5) 履修順序について

原則として, 以下の順序に従って履修すること。ただし同科目名の場合, 同一教員の科目は不可とする。

●残りの単位数による順序

残りの必要 単位数	1学期目	2学期目	3学期目	4学期目
7～8単位	AC1または2 (現在のレベル)	AC1または2 (同一レベル)	AC1または2 (同一レベル) ※1	AC1または2 (同一レベル) ※1
5～6単位	AC1または2 (現在のレベル)	AC1または2 (同一レベル)	AC1または2 (同一レベル) ※1	
3～4単位	AC1または2 (現在のレベル)	AC1または2 (同一レベル)		
1～2単位	AC1または2 (現在のレベル)			

※1 現在のレベルが「基礎」または「初級」の場合で, 残りの必要単位数が5単位以上の場合, 同一レベルではなく, ひとつ上のレベルで履修すること(次頁の「現在のレベルによる履修順序」を参照)。

●現在のレベルによる履修順序

現在のレベル	履修順序 (残り単位が5単位以上の場合)
基礎	INTRODUCTORY → ELEMENTARY
初級	ELEMENTARY → INTERMEDIATE I
中級Ⅰ	INTERMEDIATE I → 同一レベルのままとする
中級Ⅱ	INTERMEDIATE II → 同一レベルのままとする
上級Ⅰ	ADVANCED I → 同一レベルのままとする
上級Ⅱ	ADVANCED II → 同一レベルのままとする

6) 単位認定制度について (英文学科, 英語学科, 国際教養学部, 理工学部英語コースを除く)

申請年度からさかのぼり2年以内に以下の試験を受験し, 以下の認定基準を満たすスコアを取得している場合は, 所定の手続きを行うことにより, **卒業に必要な一般外国語としての単位** (英語: 4単位) として認定される。

認定された場合, 学生のレベルは「上級Ⅱ」となる (提出後にレベルを下げることはできない)。

〔認定基準〕

試験の種類	認定基準	本学における認定単位数
TOEFL iBT	88点	英語 4単位分
TOEFL ITP (本学主催に限る)	570点	
TEAP (2技能) ※プレイスメント・テスト含む	164点	
TEAP (4技能) ※AC-TEAP含む	334点	
TEAP CBT	600点	

*「TEAP (4技能)」試験の結果については, Reading/Listeningのスコア合計が「TEAP (2技能)」試験の認定基準を満たしていたとしても, Reading/Listening/Writing/Speakingの合計スコアで基準を満たしていない限り申請できない。

*TOEFL iBT®はTEST Dateスコアのみ有効とする (My Best™スコアは認められない)。

〔申請期間〕

- 認定された4単位をもって卒業を希望する場合は, 以下の期日までに申請手続きを行うこと。なお, 期日を過ぎての受付は一切行わないので, 認定を考える者はスコア到着日も含め受験日をよく確認のうえ早めに受験すること。

9月卒業希望者: 2020年7月31日 (金) 15:30迄

3月卒業希望者: 2021年2月19日 (金) 15:30迄

- その他の場合, 申請は随時受付するが, 単位認定には1ヶ月程度期間を要するため, 認定された4単位を理由に履修中止を考えている者は, 春学期は4月24日(金), 秋学期は10月23日(金)までに申請すること。それ以降の申請の場合, 履修中止までに間に合わない可能性もあるので十分注意すること。

〔申請方法〕

学事センター窓口にて, 所定用紙「単位認定願 (英語)」に記入し, 各種試験のオフィシャルスコアのコピーを添えて提出すること。ただし, プレイスメント・テストで164点以上, またはAC-TEAPで334点以上の学生が単位認定を申請する場合, 手続きにはオフィシャルスコアに代えて, Loyolaの外国語検定試験の画面を印刷したものの提出も可とする。

※14年次生以降のプレイスメント・テストの結果および2015年度以降に実施したAC-TEAPは, Loyolaの外国語検定試験の画面で確認できる。

2020年度申請の有効スコア: 2018年4月以降受験のもの

〔その他〕

- 1) 認定された場合は, Loyola掲示板で呼出するので, 必ず, 学事センター窓口にて結果を確認すること。
- 2) 認定を受けた学生は, 卒業に必要な外国語としての英語科目の残りの単位があれば, 必ず AC1, 2(ADVANCED II)

外国語科目について	英
指定言語	英語
学別履修	初習言語 (全般)
英	独・仏・西・中・ロシア語
語	イタリア語・ポルトガル語
(全般)	ラテン語・アジア語
初習言語	日本語
独・仏・西・中・ロシア語	日本語科目
イタリア語・ポルトガル語	海外短期集中講座・交換留学・海外英語担当表

を履修すること。指定以外の科目を履修した場合、卒業要件に算入されないので注意すること。

ただし、すでに英語4単位分を修得済みの学生が単位認定を申請する場合、過去に履修したレベルは問わない（修得済みの単位は卒業に必要な単位として認められる）。

7) レベルアップについて

指定されたレベルよりも上のクラスでの履修を希望する場合は、以下に示すスコアのいずれかを提出し、レベルアップの手続きをすること。なお、具体的な手続きについては、Loyola掲示板（学事センター〔教務〕）で確認すること。

各レベルのスコア基準 ※1

レベル	TEAP 2技能 ※2	TEAP 4技能 ※3, 4	TEAP CBT	IELTS	TOEFL ITP ※5	TOEFL iBT	TOEIC	英検
上級 II	150	300	540	5.5	523	69	750	準1級
上級 I	135	270	490	5.0	503	62	700	
中級 II	125	250	460	4.5	487	57	650	
中級 I	115	230	430	4.0	467	51	590	2級
初級	90	180	305	3.5	430	39	485	準2級

※1：英検以外のスコアの有効期限は、いずれも提出時より2年以内を取得したものとする。

※2：プレイスメント・テストについてもTEAP2技能とみなす。

※3：TEAP4技能は本学で実施したAC-TEAPのスコアも使用可。

※4：TEAP4技能の結果については、Reading/Listeningのスコア合計がTEAP2技能の認定基準を満たしていたとしても、Reading/Listening/Writing/Speakingの合計スコアで基準を満たしていない限り申請できない。

※5：TOEFL ITPは本学主催の試験以外のスコアでも可。

※6：TOEFL iBT®はTest Dateスコアのみ有効とする（My Best™スコアは認められない）。

（例）現在は中級IIのレベルだが、上級Iにレベルアップしたい場合

→TEAP2技能 135, TEAP4技能270, TEAP CBT490, IELTS5.0, TOEFL ITP 503, TOEFL iBT 62, TOEIC 700以上のいずれかのスコアを取得し、スコアコピーを提出する。

【注意】

- ・レベルダウンのためのスコア提出は受付しない。
- ・一度レベルアップした後にその結果を取り消すことはできない。
- ・6)の単位認定を受けた学生は、認定された時点でレベルが上級IIとなるので、レベルアップの手続きをする必要はない。
- ・レベル指定のない科目（選択科目など）を履修する場合は、レベルアップの手続きは不要。

8) 選択科目について

卒業に必要な英語科目を履修し終えた学生は、選択科目を履修してもよい。ただし、成績評価はつくが、選択科目は卒業要件に算入されない。科目一覧および詳細についてはp.160～を参照すること。なお、13年次以前の看護学科生が選択科目を履修した場合も、成績評価はつくが、卒業要件に算入されない。

初習言語（全般）

初習言語とは、英語・日本語以外の外国語、すなわちドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語、ロシア語、（ブラジル）ポルトガル語、ラテン語、インドネシア語、フィリピン語、アラビア語、タイ語、ペルシア語、カンボジア語、ビルマ語、トルコ語、ベトナム語、ヒンディー語、スワヒリ語の20言語を指す。

卒業要件となる言語は学科によって異なる（詳細はp.187～188参照）。なお、文学部および外国語学部の学生で、自学科の専攻として学んでいる言語は履修できない。

【重要】

初習言語とは、文字通り大学で初めて学習する言語のことである。よって、大学入学以前にその言語の学習経験や使用経験がある者の中で、本学で開講する初習言語のレベルの範囲や到達目標に合致しない場合は、その言語を履修することはできない。許可なく不適切なレベルで履修登録を行った場合は、学期途中であっても履修登録を削除する。

以下に該当する者で、当該言語の履修を希望する場合は、必ず各学期の初めに行うレベルアップ面接（p.133参照）にて適切なレベル判定を受けること。レベルアップ面接に出席できなかった場合、その学期の当該言語の履修登録はできない。レベルアップ面接を行わない言語（ロシア語、ポルトガル語、ラテン語、アジア・アフリカ諸語）については、初回授業より前に言語教育研究センター（6号館5階）に相談すること。

- ・大学入学以前に当該言語を学習したことがある者。
- ・家族に当該言語の話者がおり、日常的に当該言語に接している者。または使用している者。
- ・当該言語が使用されている地域での生活経験や留学経験がある者。
- ・その他の理由で当該言語を使用することが初めてではない者。

なお、ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語は検定試験の結果でレベルアップ（p.133参照）を行うこともできる。

1) 履修できる単位数について

1言語につき、各学期2単位を上限とする。ただし、上級科目・オプション科目・海外短期語学講座はこれに含まない。上級科目を必修科目として1学期2単位を超えて履修する場合は、履修登録期間中に学事センターで手続きを行うこと。また、同学期中に複数の言語を同時に履修することができる。

2) 科目のレベルについて

●ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・中国語・ロシア語

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・ロシア語は2016年度まで、イタリア語は2018年度まで、初級・中級・上級の3つのレベルに分けられていたが、現在6言語については、レベル1～5の5つのレベルに分けられている。原則として、レベル1から履修を始め、所定の科目を修得した場合、次学期から次のレベルに進む。履修順序については、p.195～197を参照すること。

・レベルアップについて

大学入学以前に当該言語を学習したことがある者（既習者）や、当該言語を使用したことのある者は、必ずレベルアップの手続きを行うこと。長期休暇中に海外短期語学講座を履修する等して、指定されたレベルより上のレベルの履修を希望する者も、必ずレベルアップの手続きを行うこと。

レベルアップの手続きについては、p.133の14年次生以降を対象としたページを参照すること。

について	外国語科目
指定言語	学科別履修
英	英語
(全般)	初習言語
中・ロシア語	独・仏・西・
ポルトガル語	イタリア語・
アジア諸語	ラテン語・アジ
翻訳科目	日本語・
開講科目	海外短期語学講座・

●その他の言語

初級・中級・上級の3つのレベルに分けられている（中級・上級のない言語もある）。原則として、初級から履修を始め、初級科目を4単位（タイ語・ペルシア語・カンボジア語・スワヒリ語は2単位）修得した場合、次学期から中級科目に進む。履修順序については、p.139～141を参照すること。

大学入学以前に当該言語を学習したことがある者（既習者）や、当該言語を使用したことのある者は、初回授業より前に言語教育研究センター（6号館5階）に相談すること。授業担当教員が妥当と認めた場合は、中級以上から履修を始めることもできる。中級以上のレベルから履修を始める場合は、履修登録期間中に学事センターにて手続きを行うこと。レベルアップをする場合、言語によっては卒業に必要な単位数が揃わないことがあるので、単位数を各言語のページで確認すること。当該言語のレベルの範囲や到達目標に合致しない場合は、その言語を履修することはできない。

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・ロシア語

1) 科目の種類について

大きく2つの科目群に分けられている。

[コア科目]…科目名に「総合1 (初級)」、「総合2 (初級)」、「総合3 (中級)」、「総合4 (中級)」、「上級」、「ADVANCED」と記載されている科目。「必修」または学科の「選択」科目として履修できる。学科によって要件が異なるため、p.187~188の「2. 学科別履修指定言語」を参照すること。

[オプション科目]…「ことばと文化」、「演習」、「検定対策」がある。卒業要件にかかわらない科目としてのみ履修可能。オプション科目は同一言語履修上限（各学期2単位）には含まれない。

2) 初めて履修する学生

2020年度に当該言語を初めて履修する者は、p.136~138の14年次生以降を対象とした各言語のページを参照すること。なお、そのページの記載にかかわらず、「オプション科目」は13年次生以前は卒業要件外となる。

3) まだ必要な単位を修得し終えていない学生

2015年度以前に当該言語を履修し、まだ必要な単位を修得し終えていない者は、2016年度よりカリキュラム変更が行われたため、単位の修得状況によって、今年度の履修できる科目が異なる。詳細は、次ページの表を参照すること。

に つ い て	外 国 語 科 目
指 定 言 語	学 科 別 履 修
英	英
語	語
(全 般)	初 習 言 語
	中 ・ コ リ ア 語
ポ ル ト ガ ル 語	独 ・ 仏 ・ 西 ・ 中 ・ コ リ ア 語
	イ タ リ ア 語 ・ ラ テ ン 語 ・ ア フ リ カ 語
	日 本 語 ・ 翻 訳 科 目
	開 交 海 外 講 義 科 目 自 担 講 座 表

■2019年度までに当該言語の単位を修得し終えていない者は、下表を参照し、必要な単位数分の科目を履修すること。

なお、2014年度以降に初めて当該言語の単位を修得した者は、p.142～144とp.147の14年次生以降を対象とした履修科目対応表を参照すること。

- ・必修科目との時間割重複により、以下の表通りに履修できない場合は、履修登録期間中に言語教育研究センター窓口にお問い合わせのこと。
- ・春学期の「総合2（初級）」「総合4（中級）」、秋学期の「総合1（初級）」「総合3（中級）」は開講数が少ないため、時間割の調整がつかない可能性があるため注意すること。

科目の表記について：

- ・-1は春学期開講科目、-2は秋学期開講科目を指す（通年科目については記載していないが、-1と-2を合わせたものとなる）。
- ・週1回科目とは、例えば初級Ⅱa・Ⅱb、初級A・B、中国語・韓国語の初級科目等、週1回開講していた科目を指す。
- ・週2回科目とは、例えば初級Ⅰ、初級総合等、週2回開講していた科目を指す。
- ・①と②は異なる科目の種類（例えば、初級Aと初級B）を指すものとする。

●初級

2019年度までに修得した科目					2020年度に履修する科目			超過 単位	備考	
科目1	科目2	科目3	科目4	単位数	科目1	科目2	単位数			
①週1回 科目-1				1	総合1（初級）	総合2（初級）	4	1	※1	
週2回 科目-1				2	総合2（初級）	（総合3）	2or4	0	※2	
①週1回 科目-1	①週1回 科目-2			2	総合2（初級）	（総合3）	2or4	0	※1	
①週1回 科目-1	②週1回 科目-1			2	総合2（初級）	（総合3）	2or4	0	※2	
①週1回 科目-1	①週1回 科目-2	②週1回 科目-1		3	総合2（初級）	（総合3）	2or4	1	※1	
初級科目4単位分					4	総合3（中級）	総合4（中級）	4	0	※2

●中級

2019年度までに修得した科目					2020年度に履修する科目			超過 単位	備考
科目1	科目2	科目3	科目4	単位数	科目1	科目2	単位数		
①週1回 科目-1				1	総合3（中級）	総合4（中級）	4	1	※1
週2回 科目-1				2	総合4（中級）	※3	2	0	※2
①週1回 科目-1	①週1回 科目-2			2	総合4（中級）	※3	2	0	※1
①週1回 科目-1	②週1回 科目-1			2	総合4（中級）	※3	2	0	※2
①週1回 科目-1	①週1回 科目-2	②週1回 科目-1		3	総合4（中級）	※3	2	1	※1
中級科目4単位分					4	※3	4	0	※2

※1 履修希望の学生は、所定の期間中に言語教育研究センター窓口にて申し出ること。超過単位は卒業要件には含まれない。なお、詳細は Loyola 掲示板（学事センター〔教務〕）で確認すること。

※2 履修希望の学生は、履修登録期間中に Loyola にて各自登録すること。

※3 中級科目から履修を始め、8単位必要な学生は、残り必要単位数分を上級科目にて履修すること。

●上級

- ・必要単位数分を、上級（A～P）、ADVANCED（INTEGRATED SKILLS）A～Dの中から履修すること。
- ・旧カリキュラムと新カリキュラムは科目の内容が異なるため、同じアルファベットがついた科目を履修してもよい。
例）「ドイツ語上級B（コミュニケーション総合）-1, -2」（2015年度科目）と「ドイツ語上級B」（2016年度以降の科目）は重複履修可。ただし、「ドイツ語上級B」は隔年開講のため、2020年度は開講するが、2021年度は開講しない。

イタリア語

1) 初めて履修する学生

2020年度にイタリア語を初めて履修する者は、p.136～138の14年次生以降を対象としたページを参照すること。なお、そのページの記載にかかわらず、「オプション科目」は13年次生以前は卒業要件外となる。

2) まだ必要な単位を修得し終えていない学生

2018年度以前にイタリア語を履修し、まだ必要な単位を修得し終えていない者は、2019年度よりカリキュラム変更が行われたため、単位の修得状況によって、今年度の履修できる科目が異なる。詳細は、p.145～146の表を参照し、必要単位数分の科目を履修すること。

ロシア語・(ブラジル)ポルトガル語

ロシア語・(ブラジル)ポルトガル語を履修する者は、p.139の14年次生以降を対象としたロシア語・(ブラジル)ポルトガル語のページを参照すること。

中級科目を4単位修得した者は、外国語学部（ロシア語学科）の開講科目、ポルトガル語学科の学科科目のうち、p.139に記載された科目を外国語科目として履修することができる。ただし、そのページの記載にかかわらず、卒業要件には算入されない。

履修を希望する者は、履修登録期間中に学事センター語学科目担当へ成績証明書と願書（自由書式）を提出すること。

ラテン語（哲学科開講科目）

ラテン語を履修する者は、p.140の14年次生以降を対象としたラテン語のページを参照すること。

アジア・アフリカ諸語

アジア・アフリカ諸語を履修する者は、p.141の14年次生以降を対象としたアジア・アフリカ諸語のページを参照すること。

について	外国語科目
指定言語	学科別履修
英	英語
(全般)	初習言語
中・ロシア語	独・仏・西・中・ロシア語
ポルトガル語	イタリア語・ポルトガル語・ラテン語・アシ
翻訳科目	日本語
開講科目	海外短期英語学講座・海外英語学講座・海外英語学講座

日本語

言語教育研究センターでは、学生のバックグラウンド及び本学での所属に応じ、トラック別に日本語科目を開講している。

【留学生（日本語で授業を実施する学部所属する日本語を母語としない学生）】

14年次生以降を対象としたページ(p.148～152)を参照すること。また、言語教育研究センターが発行する冊子“日本語科目履修のしかた”を入手して読んでおくこと。

【所属学科の指導により履修の必要性が認められた日本人学生（日本語で授業を実施する学部所属）】

14年次生以降を対象としたページ(p.150～151)を確認すること。

【国際教養学部，理工学部英語コースに所属する学生】

自分が所属する学部の“BULLETIN OF INFORMATION 2020-2021”の日本語科目についての説明箇所および言語教育研究センターが発行する冊子“JAPANESE LANGUAGE PROGRAM”を確認すること。

日本語〔翻訳科目〕

14年次生以降を対象としたページ（p.152）を参照すること。

国際教養学部生及び理工学部英語コース生は、自分が所属する学部の“BULLETIN OF INFORMATION 2020-2021”の日本語科目についての説明箇所および言語教育研究センターが発行する冊子“JAPANESE LANGUAGE PROGRAM”を確認すること。

海外短期語学講座

海外短期語学講座は、本学の交換留学協定校等が主催する語学プログラムに参加するもので、語学能力の向上を目的とする。各プログラムは、本学の開講科目として扱われ、事前指導に全て参加し、留学先で所定の成果を修めた者には、当該外国語科目の2単位が付与される。

- ⇒詳細はグローバル教育センター発行の「留学ハンドブック」および掲示等を参照すること。
- ⇒参加手続きについては事前に行われる説明会で確認すること。

- ・本学で開講する事前指導を含む所定のプログラムを修了し、海外での講座(プログラム)に参加して所定の成果を修めた者は、単位が付与され、成績評価は「P」となる。年間最高履修限度には算入されない。
 - ・開講期が春のものは夏期休業中に、秋のものは春期休業中に実施される。履修登録が必要だが、登録時期は通常と異なるため、事前の説明会で確認すること。
 - ・スケジュールが重ならないことを前提に同学期に複数の講座を履修することもできる。また、重複履修も可とする。
 - ・卒業を予定している最終学期開講のプログラムにも参加可能だが、単位は付与されないで注意すること。
 - ・当該言語が卒業要件に算入されるか否かは学科ごとに異なる。「学科別履修指定言語」(p.187～p.188)を参照すること。
(文学部および外国語学部の学生で、自学科の専門として学んでいる言語の講座は、履修することはできるが卒業要件には算入されない。国際教養学部および理工学部英語コースの学生が英語圏の講座を履修した場合も、卒業要件には算入されない。)ただし、英語については、すでに本単位を含めて卒業に必要な単位を満たしている場合、さらに英語必修科目の履修登録をすることはできない。
- *開講科目についてはp.153を参照すること。

交換留学海外英語集中講座

交換留学海外英語集中講座は、交換留学英語集中コースに参加する学生が履修する科目である。交換留学英語集中コースでは、1学期間交換留学協定校で行われている語学プログラムに参加し、英語を集中的に学ぶ。渡航費・滞在費等は参加者の負担だが、学費を本学に納入することにより留学先大学での授業料は免除される。本プログラムに参加する場合は、帰国後に指定の英語検定試験(費用は自己負担)の受験が必須となる。

- ⇒詳細はグローバル教育センター発行の「留学ハンドブック」および掲示等を参照すること。
- ⇒参加手続きについては、事前に行われる説明会で確認すること。

- ・前年度中に交換留学英語集中コースの学内選考を受け、合格した者が参加する(出願には指定の英語検定試験のスコアの提出が必要)。
- ・本学で開講される事前指導を含む所定のプログラムを修了し、海外での講座(プログラム)に参加して所定の成果を修めたものは、単位が付与され、成績評価は「P」となる。年間最高履修限度には算入されない。
- ・秋学期開講科目となる。履修登録が必要だが、登録時期は通常と異なるため、事前の説明会で確認すること。
- ・卒業を予定している最終学期開講のプログラムにも参加可能だが、単位は付与されないで注意すること。
- ・付与された単位は外国語科目として算入される。ただし、英文学科、英語学科、国際教養学部、および理工学部英語コースの学生は、履修することはできるが、卒業要件には算入されない。

について	外国語科目
指定言語	学科別履修
英	英語
(全般)	初習言語
中・ロシア語	独・仏・西・
ポルトガル語	イタリア語・
アラビア語	ラテン語・アシ
翻訳科目	日本語
開講科目	海外短期語学講座
担当表	英語集中講座

開講科目担当表

○英語（選択科目）

13年次生以前の学生は卒業要件に関わらない科目として履修可能。詳細はp.160～（14年次生以降の開講科目担当表のページ）参照

○初習言語

14年次生以降の開講科目担当表（p.163～）を参照。なお、オプション科目については卒業要件にかかわらない科目として履修可能。

○日本語

14年次生以降の開講科目担当表（p.181～）を参照。